



2月保育所だより

令和5年1月31日
桑折町醸芳保育所

年が明けても全国的に新型コロナウイルス感染症が猛威を奮っていましたが、福島県では1月中旬以降コロナ陽性数が前週の同じ曜日より下回る日が続いてきました。収束の方向に進んでいるかに感じますが、この数字は正確かどうか疑問であり、実際には発表の数字の2～3割り増しという方もいるようです。更に、現在主流のBA5より感染力が強く、ワクチンの効果も薄いと言われる新たな変異株XBB.1.5がアメリカで広がっており、日本にも遅かれ早かれ広がるであろうという報道も耳にします。減少傾向にあるものの今は、いつ・誰が・どこで感染してもおかしくない状況になっています。保育所においては、子どもたち自らが感染予防を行うのは大変難しいことであることは言うまでもありません。そう考えると、保育所にとっての一番の感染予防対策は、ウイルスを持ち込まないことです。保護者の皆様には、今後も子どもたちの体調管理へのご協力、よろしくお願いいたします。尚、お便りの後半にお子様の【体調不良時の対応について】を掲載いたしましたので、コロナに限らず様々な感染症の流行を防ぐため、保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

さて、今年は寒さが厳しいものの、桑折町において現在のところ昨年より雪が少ないようです。雪は大人にとってはやっかいものですが、子どもたちにとっては最高のプレゼントです。そう言った意味で、子どもたちにとって残念な年かも知れません。大寒も過ぎ、これから徐々に春に向かって過ごしやすくなってまいります。第2類から第5類に変更となる新型コロナウイルス感染症ですが、対応が変化するのではなく実際に終息し、世の中が更に過ごしやすくなることを願いたいものです。

<今月の保育の目標>

0歳児

- 気候や体調に気を付けて元気に過ごす。
- 保育者とのかかわりや、自分の好きな遊びを満足するまで楽しむ。

1歳児

- 空気の冷たさや雪や氷などに触れて、冬の自然を感じる。
- 保育者が仲立ちしながら、友だちと遊ぶことを楽しむ。
- 簡単な身の回りのことに興味を持ち、保育者と一緒にやってみようとする。

2歳児

- 寒さに負けず、冬の自然に触れたり、元気に体を動かしたりする。
- 清潔を保つための習慣や身の回りのことを自分で行い、健康に過ごす。
- ごっこ遊びなどを保育者や友達と一緒に楽しむ。



<2月の行事予定>

- 3日(金) 豆まき会
- 15日(水) 新入所児説明会
- 16日(木) 誕生会
- 20日(月) 避難訓練



<3月の主な予定>

- 2日 誕生会
 - 3日 ひなまつり会
 - 7日 お別れたのしみ会
 - 10日 お別れ遠足
 - 15日 避難訓練
 - 24日 修了式(2歳児のみ)
- PTA総会(書面決議)

< 保育所からのお知らせ・お願い >

【体調不良時の対応について】

次の①～③のような症状は、感染症に罹患している可能性があります。保育所内での感染症の流行を防ぐため、①～③のいずれかの症状がみられる場合は、登所を控えてください。また、重症化しないためにも、早めの受診にご協力ください。

① 家庭での朝の検温において、37.5度以上の発熱をしている

また、38度以上発熱した場合は、解熱後24時間は登所を控えてください。解熱剤を服薬して平熱となっている場合も同様です。

② 著しい咳や鼻水が出ている

咳・鼻水を介して、ほかのお子さんに感染する場合があります。

③ 下痢をしている

白っぽい色の便は、感染症の疑いが高いため、特に注意してください。

< 各クラスより >

たまご組



【↑遊戯室のソフト積み木でご機嫌】

今月は遊戯室で体をたくさん動かして遊ぶことができました。保育室より広いので、なんだか不安になって、泣きだしてしまうお子さんもいましたが、だんだんと慣れてきて、楽しく遊べるようになってきました。ずりばいやはいはいでのびのびと移動して楽しむ子。滑り台が大好きで何度も登っては滑っている子。ベンチによじ登り、窓から景色を見ている子。ろくぼくに掘まり、伝い歩きを楽しむ子。色々な様子が見られます。室内でも、のびのびと体を動かして遊べるように、かかわっていきたいと思います。

ちゅうりっぷ組

1月は、とうとう雪が降りましたね。ちゅうりっぷ組では、部屋の中に雪を持ってきてさわってみました。はじめは、警戒してなかなかさわろうとしない子どもたちでしたが、保育士がさわってみたり、小さな雪だるまを作ってみたりすると興味を持ち始め、さわることができました。冬ならではの雪遊び、おうちでも楽しんでみてくださいね。



【↑雪に興味津々のこどもたち】

すみれ組

お正月明け、給食中になるとウトウトしていた子どもも保育所の生活リズムを取り戻し、午睡時間まで元気いっぱい過ごせるようになりました。

寒くなってきたので、散歩に出かけると霜柱や氷を見つけ「つめたい」と喜んで、触っていました。月末には雪が降ったので、室内で雪遊びを行うと、雪玉を作ったり、裸足で踏んだり楽しんで遊んでいました。

上靴やジャンパーを着用する機会が増えました。自分で着用しようとする姿が見えるのでやる気を伸ばしていけるよう関わっていきたいです。

【→雪を足で踏み踏み、手でにぎにぎ】



ゆい組

「おにはそと!」「えーい」と節分ごっこを楽しんでいます。小さな鬼のお面をつけて鬼になり「えーい」と豆を投げるふりをするすると退治されたり、保育者が鬼役になった時は「えーい」「やられた〜」と退治したりしています。簡単なイメージを共有し、保育者とのやりとりを楽しめるようになりました。友達同士では、まだ言葉ではうまく表現できなくても身振りや表情、動作仕草などで互いに思いを伝え合っています。保育者が友達の間を仲介しなくても、互いにかかわり合う姿が見られるようになってきました。引き続き、保育者や友達と過ごす楽しさを味わえるようにかかわっていきたいと思います。



【↑ぼくたち、こわーい鬼だぞー】

ひまわり組

年末年始の休み明け、生活のリズムを取り戻すのに個人差は見られましたが、保育者や友達と一緒に身の回りの始末に取り組んでいました。好きな遊びでは、アンパンマンパズルや凧あげなどをして遊び楽しむことができました。パズル遊びは、始めの頃「先生、できな〜い!」と言って直ぐに助けを求めていた子が「一人で出来る」「やらないで〜」と言って、一人で完成させて楽しんでいました。

天気の良い日は、戸外に出て遊びました。朝早く戸外に出ると、花壇の近くにたくさんの霜柱が出来ていて「冷たい!」「こおりだよ〜」などと言って砂場用のダンプカーの荷台に積みこんでいました。(笑)



【↑雪の上にゴロンって気持ちいい〜】

さくら組



【↑雪遊びたのしいね～】

少しずつ幼稚園へ向けて、椅子の座り方や、待ち方、お話の聞き方など、意識できるようにしているところです。頑張ってきたときには、「幼稚園のお兄さんみたいで、カッコイイよ！」と声をかけると、エヘと嬉しそうな姿が見られています。

1月の初めはお天気続きだったので、外でビニール凧を飛ばしてたくさん走ったり、散歩に出かけたりして、体を動かして遊びました。室内では、わらべ歌“ぺったんもちつき”に合わせて、皆でお手玉遊びをしたり、パズルやカード、色々な製作活動を楽しんでいる子ども達です。最近、鬼のお面や豆を入れる升、豆づくりなどを楽しみました。「鬼が来ても怖くないよ～」「やっつけるんだよ！」と言って鬼に負けないように、頑張っている鬼退治の練習をしています。

家庭生活ポイント「生活リズム」「あいさつ」「読書」…より

外遊びで防ごう 子どもの視力低下

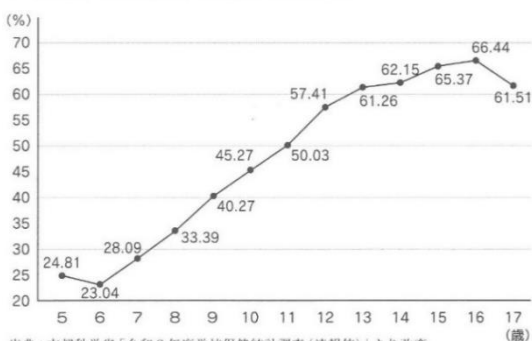
文部科学省発表の令和3年度「学校保健統計調査(速報値)」によると、5歳の裸眼視力1.0未満の者の割合は24.81%です。ちなみに6歳は23.04%、11歳は50.03%です。小学校入学後、裸眼視力1.0未満の者の割合が、おおむね増加傾向を示しています。年齢が上がるにしたがい視力の低下が著しいため、まずは幼児期から、目の健康に良い習慣を身につけましょう。

子どもたちの生活環境は、コロナ禍の影響もあり、家で過ごす時間が長く、デジタル機器の使用も増えています。近いところをみる機会が多くなると、近視になる確率も高まるといわれています。

公益社団法人日本眼科医会では、子どもの近視を防ぐために「近視がある子もいない子ども1日2時間は外にすることが有効」と発信しています。また、台湾やシンガポール、中国などでも近視予防のための外遊び推進の取り組みが行われ、近視の予防や進行抑制につながっているという研究結果が出ています。屋外活動による近視の予防効果は、年齢が低い子どもほど高いそうです。幼児期は、意識して外遊びをすることが大切です。

冬は室内で過ごす時間も長くなりがちです。目の健康のためには、できるだけ子どもが外で体を動かす時間を持てるように工夫していきましょう。

○年齢別 裸眼視力1.0未満の者の割合



出典：少年写真新聞社 ほけんニュース

2022年12月号